2019年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	映像機器学及び演習 (Image Media Technology and Exercises)		
ナンバリングコード	P21402	大分類 / 難易度 科目分野	情報メディア学科 専門科目 / 標準レベル 映像デザイン
単位数	3	配当学年 / 開講期	2 / 前期
必修・選択区分	コース必修:メディアデザインコース コース選択必修:情報コミュコース 選択:情報工学コース、こども・情報教育コース		
授業コード	P140201	クラス名	
担当教員名	小島　康史		
履修上の注意、履修条件	「映像企画・取材学」の単位を修得していることを履修条件とします。 　娯楽作品ではなく主にドキュメンタリー作品を中心に、テレビ、ビデオ、DVD、映画などの身近な映像メディアや映像作品を視聴し、それぞれの作品に設定されている「対象」と「目的」を考えながら見る習慣を付けてください。また、視聴を通して印象に残った構成やカメラアングルなどをメモしておきましょう。		
教科書	第1回講義でオリジナル講義資料(学修ノート)を配布します。 学修ノートは第16週に回収します。		
参考文献及び指定図書	情報映像学入門　佐々木成明著　オーム社 よくわかる映像コンテンツ制作入門　映像情報メディア学会編　オーム社 映像制作入門　鈴木誠一郎、喜多千草著　ナカニシヤ出版		
関連科目	情報デザイン入門、映像企画・取材学、映像構成・演出学及び演習、取材実践・編集学及び演習、情報デザイン総合演習		

○授業の目的・概要等		
授業の目的	ビデオカメラやデジタルカメラ、スマートフォンの高機能化によって、だれでも手軽に動画制作ができるようになり、多くの人々が動画制作を楽しんでいます。しかし、ネット上に公開されている完成作品を見るかぎり作品の質にはバラツキが多く、残念ながらほとんどの作品は自己満足に終わっています。 　コンテンツ・クリエイターを目指す学生諸君が制作する映像は、それらの作品群とは異なり、あくまでもコミュ ニケーションツールです。つまり、「誰かに何かを誤解させることなく伝える」という機能が求められています。 　本学の映像制作教育プログラムが諸君に求めているものは、情報を正確に、しかも効果的に伝えるためのツールとして、映像を使いこなしていくための知識と能力を身につけることです。 　そして、諸君が制作する映像作品は、表現に芸術的なセンスが求められはしますが、それ以上は	
授業の概要	2コマ連続で座学と演習を行います。具体的には、チームを単位として座学で学んだ内容を、ショートムービーの撮影実践を通して、1つずつ確認しながら実践することによって、知識と技術を身につけていきます。このプロセスでは、簡単な企画書・シナリオの作成、フィールドカメラによる撮影やノンリニア編集などを行います。 　各チームは毎回演習を通して制作した映像について、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行います。 　このプレゼンテーションを素材にチーム間で討論することによって、反省や学び、気づきのきっかけとし、次の実践に活かします。小作品を提出後にはスタッフ全員で視聴し、質疑応答や講評を行います	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	小島康史 本授業の学習対象である映像機器の分野(プロモーション、記録、ドキュメンタリー、映画、テレビ、CM等)において、ディレクター、プロデューサー業務を30年間従事している。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト(期末試験・中間確認等)	提出物(レポート・作品等)	無形成果(発表・その他)
【関心・意欲・態度】	学習内容や集積できた情報、知識を活用して、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。		20点	
【知識・理解】	学習内容や集積できた情報、知識を活用して、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。		30点	
【技能・表現・コミュニケーション】	学習内容や集積できた情報、知識を活用して、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。		30点	
【思考・判断・創造】	学習内容や集積できた情報、知識を活用して、対象や目的に沿った映像(長さは5分前後)をスタジオ機材や撮影・編集システムを活用して制作できる。		10点	10点

○到達目標に対する到達度の目安、および、成績評価の補足

[Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

○備考欄

期末試験・レポート等の学修成果課題のフィードバック方法は、教員のコメントを添えて返却します。

2019年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画　科 目 名 ： 映像機器学及び演習（Image Media Technology and Exercise:　授業コード：P140201
担当教員： 小島　康史

学修内容

1. ビデオ撮影の概要
第1週目は2コマ連続で、以下のついての座学のみを行う。撮影の仕方、撮影画角の知識 、フレームサイズ、画角、カメラアングル、アイリスの手動調整、カメラワークと照明法などに関する撮影の知識、上手と下手、イマジナリーラインなど画面構成上のルール。第2週から制作するショートムービーの企画書とシナリオの作成を行う。

予習： 参考文献を読む。（約4.0h）
復習： 参考文献の2冊目を読む。（約4.0h）

2. ショートムービー制作演習1（学内）
学内施設紹介のショートムービー制作演習を行う。

予習： 授業で説明のあった機材について使用動作を確認する。（約4.0h）
復習： ショートムービーの見せ方について、客観的な検証を行う。（約4.0h）

3. ショートムービー制作演習2（学内）
座学では、各チームが第2週に制作したショートムービーについて、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行う。ショートムービーの視聴後、チームが行ったプレゼンテーションの内容についての意見交換を行い、最後に教員が作品の講評とともに、問題点や改善点を指摘する。演習では、第2週とは役割を変えて同じ学内施設の紹介ショートムービーの制作実践を行う。

予習： ショートムービーの構成を考える。（約4.0h）
復習： ショートムービーの見せ方について、客観的な検証を行う。（約2.0h）

4. ショートムービー制作演習3（学内）
座学では、各チームが第3週に制作したショートムービーについて、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行う。ショートムービーの視聴後、チームが行ったプレゼンテーションの内容についての意見交換を行い、最後に教員が作品の講評とともに、問題点や改善点を指摘する。演習では、第3週とは役割を変えて同じ学内施設の紹介ショートムービーの制作実践を行う。

予習： ショートムービーの撮影手法を考える。（約4.0h）
復習： ショートムービーの撮影手法の見せ方について、客観的な検証を行う。（約4.0h）

5. ショートムービー制作演習4（学内）
座学では、各チームが第4週に制作したショートムービーについて、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行う。ショートムービーの視聴後、チームが行ったプレゼンテーションの内容についての意見交換を行い、最後に教員が作品の講評とともに、問題点や改善点を指摘する。演習では、第4週とは役割を変えて同じ学内施設の紹介ショートムービーの制作実践を行う。

予習： ショートムービーの録音手法を考える。（約4.0h）
復習： ショートムービーの録音手法の見せ方について、客観的な検証を行う。（約4.0h）

6. ショートムービー制作演習5（学内）
座学では、各チームが第4週に制作したショートムービーについて、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行う。ショートムービーの視聴後、チームが行ったプレゼンテーションの内容についての意見交換を行い、最後に教員が作品の講評とともに、問題点や改善点を指摘する。演習では、第4週とは役割を変えて同じ学内施設の紹介ショートムービーの制作実践を行う。

予習： ショートムービーの表現手法を考える。（約4.0h）
復習： ショートムービーの表現手法の見せ方について、客観的な検証を行う。（約4.0h）

7. ショートムービー制作演習6（学内）
座学では、各チームが第5週に制作したショートムービーについて、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについてプレゼンテーションを行う。ショートムービーの視聴後、チームが行ったプレゼンテーションの内容についての意見交換を行い、最後に教員が作品の講評とともに、問題点や改善点を指摘する。演習では、第5週とは役割を変えて同じ学内施設の紹介ショートムービーの制作実践を行う。

予習： ショートムービーの演出手法を考える。（約4.0h）
復習： ショートムービーの演出手法の見せ方について、客観的な検証を行う。（約2.0h）

8. ショートムービー講評
各チームが制作したそれぞれ6本のショートムービーについて、表現上の変遷を確認するとともに、視聴対象、作品全体を通してのねらい、カット構成を決定した理由、それぞれのカットの意味やねらい、撮影法の工夫などについて1つずつ講評を行い、ショートムービー制作演習の締めくくりとする。

予習： ショートムービーを制作する上で重要な制作手法についてまとめる。（約4.0h）
復習： 作品制作において演出の果たす役割についてまとめる。（約4.0h）

○授業計画　科 目 名 ： 映像機器学及び演習（Image Media Technology and Exercise:　授業コード：P140201
担当教員： 小島　康史

学修内容

9. オープンスタジオ機材の使用法1
オープンスタジオおよび、サブスタジオの収録機器それぞれの機能や使用法を説明し、本学科での映像表現のベースとなるスタジオ機材に関する知識と機器の取扱に関する技術を、チーム単位で実際に機器を操作することを通して身につける。

予習： 撮影で使用する機材のチェックを行う。（約4.0h）
復習： 撮影、録音、照明機材の使用マニュアルを作成する。（約4.0h）

10. オープンスタジオ機材の使用法2
配布教材にしたがってスタジオ機材の立ち上げとクロマキー合成、撮影サイズ、カメラの切り替え、照明などについて解説する。。各チームの演習後、機器の取扱等についてチーム間で意見交換を行う。さらに問題点等がある場合は、教員が指摘し改善策に関して討論を行う。

予習： 撮影サイズや望遠、ワイドの特性について調査をする。（約4.0h）
復習： 撮影手法の違いによる表現について研究する。（約4.0h）

11. 撮影編集機材の使用法
照明機器及び音声機器について解説する。ENGシステムでの撮影が速やかに行えるよう、スタッフワークを習得する。編集機器について解説をする。プレミアプロを使い簡単な編集を行う。

予習： 編集のマニュアル書を読む。（約4.0h）
復習： 簡単な編集表現を行う。（約4.0h）

12. ショートムービー制作実習1（学内）
モノローグの手法を取り入れたセルフ・ドキュメンタリーの制作をするために、企画構成案をグループにて話し合う。

予習： 人物を対象とした演出プランを思考する。（約4.0h）
復習： セルフドキュメンタリーのテーマを考える。（約4.0h）

13. ショートムービー制作実習2（学外）
セルフドキュメンタリー制作。主にモノローグに応じた場所にて撮影を行う。

予習： 人物を浮き立たせる撮影シュツエーションを考える。（約4.0h）
復習： 人物描写について考察する。（約4.0h）

14. ショートムービー制作実習3（学外）
セルフドキュメンタリー制作。主にモノローグに応じた場所にて演出プランに即した追加撮影を行う。

予習： モノローグの手法を試みる。（約4.0h）
復習： 編集におけるモンタージュ作業を行う。（約4.0h）

15. ショートムービー制作実習4（学外）
セルフドキュメンタリーを完成させる。ナレーション原稿やモノローグ原稿を作り、画コンテに即して撮影を行う。

予習： 作品のの核とテーマについて検討する。（約4.0h）
復習： 音楽や効果音を入れ込む。（約4.0h）

16. 映像作品講評
完成した各チームの映像作品を発表・講評し、映像表現上のポイントに関する理解を深める。

予習： 最終的な作品に仕上げる編集を行う。（約4.0h）
復習： 作品の講評をもとに、発見したことをレポートにする。（約4.0h）